

川
柳

愛 子

(鶴沼川柳同好会)

少年の眼キラリと夢語る
朝さんぽ風が体を吹き抜ける
半額のシール貼る手を待つて買う
先に行く伝言板に知る破局
朝日受けダイヤに優る芝の露

赤 堀 晶 子

(六会川柳会)

萎えそうな心鼓舞する予定表
特別のおもてなし等要らぬ仲
土用の丑に義務はないのに鰻食べ
長短所併せ持つてる得手不得手
筆不精益求精々遠くなるポスト

あ き ら

(辻堂川柳会)

年金者ステーキ食えず鳥貴族
初心者相場読めず到大損す
所詮は人寄せパンダ進次郎
石さんのネバネバ談義大嫌い
泥船の岸破政権SOS

雨 宮 則 子

(湘南台川柳会)

温暖化海岸線が溶けていく
デジタルの本を開くは指の腹
お名前を思い出しつつあいづちを
チャリンコのママの手外すもみじの手
熟睡の重くて温い抱っこ紐

いさを

市川嘉紀

(辻堂川柳会)

(鶴沼川柳同好会)

マージャンで勝つには顔は無表情
煽てられ過ぎして来たな半生を
お安くと言われ余分に買い求め
わくわくは何処かに忘れ見つからず
樹木延び住む人無いが税払う

揺りかごの寝顔を風がそつと撫で
人生ははかないと言いくく食べる
土砂降りに落ちたスマホが鳴っている
人並みに合った歩幅で転ばない
妻の留守何故かわくわくするのです

石川正明

井上朗

(湘南台川柳会)

(川柳こぶしの会)

こいのぼり子どもの頃は高かった
桜見て成長したか自問する
必要かクーラーあつて夏休み
会議中顔を伺い物申す
セーフだが騒がぬ矜持プロの技

ITのベンチャーが行く初詣
近頃のイケメンみんな同じ顔
図書館へ通い冷房読んでいる
マスク盗れる高さに仕立てられ
検査して異常見付けて恙ない

井上朗

小野敬子

(六会川柳会)

(六会川柳会)

人生は山や谷ありのり越える
桜咲く社会人へと歩き出す
弁当で胃を握られたありがとう
生きて行く希望と夢を胸に抱き
手こずるがやりがいあるな物作り

新札は出たが家計に変化なし
ふさふさねカツラなのかと友が聞く
大安に検診結果聞きに行く
じつちゃんはキラリ金歯を見せ笑う
家出して毛なみ良くなり戻るタマ

岡本昌代

菊地政勝

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

侘しさもまたごちそうと山の宿
派手な羽哀しいオスの晴れ姿
巨岩さえ水二滴に碎かれる
屋根落ちてなお堂々のバルテノン
じわじわと私の影が老いていく

男らしく女らしくは消えてゆく
永遠の誓い忘れた横恋慕
思いだし笑いを妻に咎められ
見たような浄土を語るお坊さん
AIにあの世の様子聞いてみる

今日一

熊田松雄

(川柳こぶしの会)

値上げされいくらか減らす年賀状
財産は無いが負債も無い気楽
待ち合わせミスの出ぬよう文字メール
ゆつくりと生きてばかりじゃ後がない
申告で改めて知る所得額

(湘南台川柳会)

老いて病む日々冒険の鬼やんま
裏切りのドラマの横にマドレーヌ
泣き言を母に洩らして母に詫び
煙たいと思える人がいて平和
退院日有難いしか出てこない

日下部 いくお

ケ イ

(湘南台川柳会)

孫生まれ無精男の好好爺
部長との酒席は遠慮泣き上戸
模造品鑑定団の鋭い目
一応は打診夕餉のリクエスト
グループを孫に贈って描く夢

食べる買う景色二の次バस्ताー
お題受け寄席の紙切り客わかす
近未来コオロギまでも食材か
水槽の海月キュートなスケルトン
常套句余裕あつてもとり急ぎ

権田 藍

島津富弥

(湘南台川柳会)

心配をくばって歩く孫二人
お互いに傷を見せあう武勇伝
傍にいて叱咤激励子の言葉
復興の足がかりにとボランティア
極楽とまごう介護で歩けない

(湘南台川柳会)

喜怒哀楽いつも二で割る妻という
地球より重い生命の軽い価値
四捨五入されない位置の疲労感
底抜けの笑顔もあつた災害地
陣笠も総理も同じ抱負談

笹原 英美子

尚 風

(湘南台川柳会)

温暖化節目つかない春夏日
顔見知り名前浮かばずねえあなた
みな仕事平日ランチシニア族
散歩だよベット誘うも顔そむけ
バスゆられ思わずつかむイケメンを

災害にめげぬと始業ベルの音
思いやり重ね支援の輪ができる
千年を生きてこの地の御神木
戦争は愚かと知れとヒロシマが
偽サイトさわり闇へと導かれ

菅沼雅彦

妹尾安子

ことばより爆発物が勝る日々
あじさいは忍者を越えて七変化
あら不思議夏日が続く春なのに
OB誌最初に見るは訃報欄
上がるのは物価血圧まだあるよ

(六会川柳会・鶴沼川柳同好会)

邦人の頑張り嬉し相撲界
踏まれてもすぐ起き上がる草の意地
見ぬふりや聞こえぬふりも知恵のうち
雑談の中にもキラリ生きる知恵
富士山に一番似合う服は雪

鈴木有

竹花敏夫

一つまみ嘘を加えて世を泳ぐ
伝言板つないだ今は孫五人
虹紡ぎ横糸にして明日を織る
陽だまりで話し相手の猫あくび
女房には今も言えない母の味

(辻堂川柳会)

(湘南台川柳会)

裏金でできたバッチが闊歩する
選挙戦うまい話をする期間
公約は破れ空しい秋の陣
AIが人の社会を支配する
民主主義国家にもいる独裁者

田中邦彦

塚本有子

きつかった婚約指輪ゆるみだし
軽口の中にも本音のぞいてる
壁の傷隠す名画のカレンダー
食欲はないがお酒は別の口
いつの世も敬語で話す義理の仲

(湘南台川柳会)

不都合はすべて略して見合い席
表札にペットの名前並べ書く
気まぐれな電話で不用な物を買
失敗が可愛く見える年を越え
リスクなど問題外と正義漢

近下

戸澤千鶴

まだらボケサブリ。パワーで甦れ
コンピュータ俺はいつまで新米だ
冥土へと背負う荷物の多い事
断捨離はあなたが先と妻が言う
絵空事それでも聞いて俺の夢

(辻堂川柳会)

(湘南台川柳会)

屋根裏のねずみを知らぬ令和の子
熱き夢抱き覚悟の過疎移住
繁華街顔見て配る誘いピラ
大将の気分で開ける縄のれん
孫生まれ何のかんのと義母が来る

としを

長屋 比佐子

(なぎさ川柳会)

(湘南台川柳会)

なぜかなあエスカレーター急ぐ足
この人生テレビと共に今が有る
ビデオでの判定に客受け止める
採血に温もりのある優しい手
大谷に元気を貰うロスの街

産道を出でて大泣き感謝の日
しとやかな振りして我が意成し遂げる
撤饌を節分毎にくれた母
還暦を祝いつ祓う厄の年
父が逝きずつしり重い不動産

長嶋 富士子

西村 雅子

(湘南台川柳会)

(六会川柳会)

脳手術リスク考え決めかねる
気まぐれな話はどうも受け流し
思い出は良き事のみが胸に満ち
春風よ私の脳に辞書詰めて
わがままを気付かぬ歳になり気楽

抱き上げて楽しんだ子は今スルー
折り鶴は脳と指先結んでる
老化です医師の一言やる気折る
停車場で待つ母の場所あの辺り
泣いた後さわやか笑顔友ピース

のどか

幡多 純

(辻堂川柳会)

(湘南台川柳会)

町内でここにもあつた空き家だよ
空き家増高齢者では借りられず
新米は買えない高値食べたいな
コメ不足現れたのは高値米
朝だから下りは順調東名道

眼を見れば喜怒哀楽が読める老い
日々の家事でこずりロボに助け船
禁煙のあの手この手も使い果て
八ゼロ二ゼロ手入れ自慢の歯がキラリ
路線バス間引き空白過疎地なみ

はじめ

春 水

(鶴沼川柳同好会)

(辻堂川柳会)

箸付ける前にスマホに先ず見せる
門前にさりげなくある椅子ひとつ
命まで預けてしまう空の旅
根を張って草が教えるど根性
本名は電子レンジと申します

改札を探しウロウロ無人駅
ロケインの度に大声二階から
出来た筈いつ迄やつても出来やせぬ
お若いと言ってかわせば不戦勝
子供らの笑いが満ちて鍋は空

深野 いく生

(なぎさ川柳会)

同じ話また繰返す老い二人
もったいない断捨離止めてまた戻す
手術済み明日は歩けと医者言う
リハビリの一步一步が明日を呼ぶ
まだゆかぬお呼びが来たら断わろう

船越 しのぶ

(湘南台川柳会)

誕生日忘れるほどに年重ね
不意の客ぬか床匂う手で迎え
トリセツは何を撮るのと孫に聞く
にわか雨熱気さめずに霏もやが立つ
庭ごしのとりの桜ひとり宴

古木 光江

(鶴沼川柳同好会)

若者がメールで辞表出社せず
子にスマホ自分の時間作るママ
視力落ち手こずる針目糸通し
道の駅両手いっぱい句を買う
喧嘩して品数減らす晩御飯

紅花 娘

(六会川柳会)

永田町心折れるは庶民だけ
駅へ行く紫陽花の道梅雨もよし
CO2減らす生活指切りを
本気より無心で打つよホールイン
中秋の風さわやかで身も軽く

まい こ

(辻堂川柳会)

限界と袋が悲鳴詰め放題
やり直しカード戻らぬ4回目
気が付けば期限すぎてるサービス券
あれかこれ鏡のぞいて初デート
恋の花伝言板に咲く昭和

増田 ちか

(湘南台川柳会)

子が巣立ち夫婦の仲が試される
春夏の区切り分からぬ温暖化
自転車に主軸を移す家事情
気配りが出来る大人になった孫
手を振って近くに來たら人違い

松江 文

(湘南台川柳会)

風呂入りたまには足を伸ばしたい
がんばれと我が身をさする腰と肩
新豆を焚いて笑顔で腕囲む
ドア開けて廊下トイレはサウナ風呂
ガウン着て卒業出来た夢叶う

マリ

(六会川柳会)

ルビないと読めぬ名前前で師が困る
おいしいね何でも噛める歯に感謝
單身をLINEがつなぐ家族愛
巣立つ子を駅で見送る泣き笑い
預金なし金利の話縁がない

水城 茂子

村田 和彦

(六会川柳会)

(湘南台川柳会)

鏡みて顔の健康チェックする
ゴールして笑顔にキラリ玉の汗
テレビ前クイズに答え独り言
老眼のメガネで足りず虫めがね
世界中異常気象でちよつと変

雨の日はドレミドレミのトタン屋根
投げた石ぶつかったのが今の妻
ア行から探し始める友の名を
電子キー閉っているか廻すノブ
猥雑が溶け込む街に憩いの場

みゆき

村田 憲治

(六会川柳会)

ニュース見て美味しい話ないと知る
おいしいを分かち合えればさらに美味
記念日を忘れたふりで通過する
身近でも内戦起こる家庭内
星見上げ平穩無事の世を思う

目の前を秋が横切る赤とんぼ
笛太鼓何年振りか秋祭り
あの酷暑時が過ぎれば懐かしく
酷暑過ぎ秋通り過ぎ寒い朝
ワクチンが有料になり接種せず

守田 貴美子

悠々

(六会川柳会)

(辻堂川柳会)

空腹というわけでなく口さみし
土砂降りの中で耐えてる花一輪
生きてますかあの日別れて半世紀
恋なんてしたことのない顔で聞く
青空にまあるい月のある不思議

改札口残る思い出切符切り
心構え入力前のメモ探し
ガラ空きの棚が待つのは黄金の穂
空き家街角に庭草のびる主思う
おっ早い嬉しお通し有料か

八幡 禮子

吉田 節子

(こぶしの会)

(六会川柳会)

子を諭す父母の心は無限大
意気合った友の笑顔に腰を上げ
思いやる距離を保って仲が良い
連れ糸ほどき笑顔の母と居る
一呼吸置いて火種を消しておく

書き込んだ伝言板がなつかしい
私が国を憂えて笑われる
宇宙行く衛星ゴミをばらまいて
子守うた母がその中眠くなる
老眼鏡ふえてひとつは首にかけ

吉野 健 司

渡辺 次郎

(湘南台川柳会)

(湘南台川柳会)

背中押す物は試しという呪文
行列のずつと最後にいる無念
ドロ沼にあるもレンコン先は見え
暑すぎて食べるも寝るもひと仕事
寝てる間に来て去る雨の思いやり

狭いけど庭つき戸建夢かなう
いたわりも時には負担だつてある
老いを知る二時間ドラマ蚊帳の外
苦勞せず生きる人生これもあり
あと五分布団に居たい冬の朝

玲 和

(辻堂川柳会)

心配するな空き家セコムのプレートが
新米新米と騒ぐなシンマイ洪い顔
サービスするよオットどっこいその手には
カタツムリ勝手気ままなワンルーム
常識さ！内緒ごとにはチャックなし

第三十七回 ふじさわ川柳大会記録

宿題 「駅」 白鳥 象堂 選

日 時 二〇二四年 九月二十九日(日)

五 客

主 催 ふじさわ川柳大会実行委員会
共 催 (公財)藤沢市みらい創造財団
後 援 藤沢市・藤沢市教育委員会
会 場 藤沢市民会館 第一展示集会ホール
参加者数 八十一名

急行が駆け抜けてゆく最寄駅
迷宮の裏に導くターミナル
道の駅両手いっぱい匂を買う
駅ソバがホームのベルにせかさされる
能登の復興終着駅は未だ見えず
昌 代

宿 題 「駅」 白鳥 象堂 選

三 才
人

「手こずる」 池上 幸子 選
「あからさま」 外澤とくろう 選
「爽やか」 芦田 鈴美 選

哀愁も希望も乗せる風の駅
地 廃線の駅に彼岸花が揺れる
道 子

特別課題 「キラリ」 竹花 敏夫 謝選

天 (市長賞)

降り立てば街の暮らしが香る駅
みちお

表 彰 市長賞 宿題の天の句 四句

平和とは結びつかない駅の鳩
軸

宿題 「手こずる」 池上 幸子 選

五客

片付ける老の手重く坭の家 和子(加藤)
 はかどらぬ人知及ばぬデブリ処理 ゆかり
 根回しのいの一番に分からず屋 みちお
 生意気な昔の僕のような部下 とくろう
 半熟の卵の殻が剥がれない 稔

三才

人

世の中のすべてのものが開けづらい 閑 磔

地

そのままの君がいいよが命とり 天 晴

天(市長賞)

人の世を翻弄させる大自然 敏 夫

軸

助けられ老々介護ゆつたりと

宿題 「あからさま」 外澤とくろう 選

五客

名を揚げて私の過去が晒される ひろせ
 キックバック受け取るための助成金 岳
 眼を見れば喜怒哀楽が読める老い 純
 頼み事あからさまには言えぬ訳 國 雄
 ありのまゝ報告してはダメですか 政 竜

三才

人

横丁でいの一にさんま焼く 綾

地

この星の不機嫌あらわ暴風雨 沙 京

天(市長賞)

子の前で俺の失敗話す妻 卓 郎

軸

この人が好きだと顔が言っている

宿題 「爽やか」 芹田 鈴美 選

五客

わだかまり解けて九月の青い空 ひろせ
 いわし雲秋を演出して遊ぶ 綾
 湘南の風にシラスの天日干し 岳
 少年の口調ハッカの香りする 洋 子
 伝説となる禪讓の鮮かさ 武 彦

三才

人

コココーラでした私の青春は 孔 亮

地

青みかん揺らして渡る秋の風 和子(加藤)

天(市長賞)

自己ベスト出して見上げるパリの空 朗

軸

熱波さらりとスクランブルは秋の色

特別課題 「キラリ」 竹花 敏夫 謝選

五客

少年の眼キラリと夢語る 愛 子
 独裁者底なし沼の目が光る よしき
 原石のきらり十代アスリート 沙 京
 全身が発光してる翔タイム 壱 郎
 カラットの反射に女拉致される 和 可

三才

人

子に潜む見えぬ才能掘り当てる 美津子

地

斎藤知事のなみだ野心がキラリ 節 子

天

無罪判決涙で光る姉の頬 眞 子

軸

初舞台選句に躍る目がキラリ